

【巻頭言】

1 つの幸運な出会いから始まった学友会活動

企画委員 西田高大(短13回生)



まず初めに、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が世界で猛威をふるい、我が国においても政府より非常事態宣言が発令され、医療崩壊が危惧されるなか、チーム医療の一員としての放射線技師の役割も大きく、皆様自らの感染に留意し、日々忙しくされておられるかと思います。この巻頭言が掲載されている頃には終息している事を切に願っております。

技師になり17年目に入りました。私の技師生活の始まりは2004年5月、神戸大学医学部附属病院の非常勤職員でした。国家試験には合格していましたがまだ就職が決まっていない状況であったある日、私に西谷先生から「とりあえず神大病院に挨拶に行って来い。良いようにしてくれるから」と言われ、訳もわからず訪問すると、そこには当時技師長をされておられた前学友会会长の神澤先生がおられ、私をみるなり「じゃあ白衣のサイズ決めて、職員証の写真を撮影して、事務手続き終わったら戻ってきて」と言われ筆記試験や面接もなく、知らぬ間にその場で採用となっていました。西谷先生に報告とお礼に行くと「これがうちの学友会や。すごいやろ」と言われた事が忘れられません。

神大で勤務して1年がたった時、神澤先生より「学校で夏休み明けに短大3年生を対象に学友会主催で就職懇談会を開催していて、その講師しないか」と言われ、拾って頂いた恩と所属長からの提案に断れる状況ではなく、自分に務まるか不安でしたが講師を引き受けました。その後、大阪厚生年金病院(現 JCHO 大阪病院)に懇談会開催前に転職が決まり、講師を断われるチャンスと思い神澤先生に相談に行くと、「大丈夫や。厚生年金の埜藤技師長は同級生で同じ学友会理事で今回の就職懇談会にも参加するわ」と笑顔で言われた事を今でも覚えています。

その後、厚生年金病院を1年も経たずに現在の職場へ転職するという埜藤先生には大変な不義理をしてしまい、就職懇談会に今後呼ばれる事はないと思っていたのですが、翌年も学友会会长になられた埜藤先生から「西田君が3つの病院で経験した事を講師として学生に伝えてあげて欲しい」と言っていただき、埜藤先生の懐の広さと母校を思う学友会の凄さをここでも感じる事となり1年目とは違い喜んで引き受けました。

懇談会では、自分が就職活動において知りたかった情報や、大学病院と市立病院(公務員)の違い、3つの病院の初任給やボーナス等包み隠さず学生に伝える事で、学生からの評判がよかつたと言っていただき、2005年から11年もの間講師をさせていただきました。

神澤先生に就職懇談会の講師に誘っていただいた事が始まりとなり、2015年からは学友会理事として仲間入りをさせていただき、2017年からは出石企画委員長のもと理事として就職懇談会を企画・運営、昨年の総会では山村実行委員長のもと実行委員もさせていただき、大変有意義な経験と勉強をさせていただいております。

最後に、学友会では2年に1度総会を、また、全国24支部に構成されそれぞれの支部により支部総会が開催されています。学友会も世代交代の時期に差し掛かっています。総会、支部総会に短大・大学卒業の方が多く参加いただき、伝統ある母校の学友会を守り、さらに盛り立てていただきますよう、皆様のご協力をよろしくお願い致します。

以上

* 通巻236号 2020年7月10日発行(2020-No.2)より